

授業概要

社会と言語とは、実際には切っても切り離せない関係がある。もし人の集まりである社会というものがなく、一人で生きているならば、言葉は不要となるかもしれない。社会と言語はどのような関係があるのか。社会と言語との関係について考えるきっかけになるよう、社会言語学の基本的な考え方を講義する。前半は主に共同体による言語の違いについて、後半は主にコミュニケーションに関する問題を扱う。

授業計画

第1回	言語学と社会言語学の違い
第2回	地域方言について
第3回	職業の違いによって言葉は変わるか
第4回	言葉の世代差
第5回	言葉とジェンダー
第6回	日本で別言語の話者が生活するには
第7回	言語変化はどのように起こるのか
第8回	「ビジン」と「クレオール」
第9回	「あなた」と「きみ」の使い分け
第10回	タブーと言い換え
第11回	会話における文脈の重要性
第12回	行動と会話
第13回	言語と文化の関係
第14回	日本語の特色を考える
第15回	授業のまとめと期末試験について
第16回	筆記試験

到達目標

社会言語学の基本的な考え方を一通りマスターする。それによって、自分が使っている言葉と社会の関係について、考えることができるようになる。

履修上の注意

講義形式ではあるが、言葉に対する「気づき」を大切にしたいので、積極的に臨んでもらいたい。日本語話者であれば、特に前提となる知識は必要としない。

予習・復習

授業の最後に、次回の授業の内容に関係した課題を提示する予定である。そこに書かれた内容を授業に反映するので、積極的に記入すると同時に、次の授業まで、日常生活の中で課題として出された社会言語学的な現象について意識を持っておいてもらいたい。

評価方法

期末試験によって成績をつける(100%)。期末試験は、授業で学んだ知識を確認する問題とともに、言葉と社会の関係について、授業を通して発見したこと、あるいは疑問に思ったことなどを自由に書いてもらう設問を含む予定である。

テキスト

プリントを作成して配布する。